

米こめの滝たぎ

むかし、むかし、本郷町の岩崎山の頂上に小さなお城があったのだと。

このお城にな、隣りの国の殿様が大军をひきいて攻めてきたのだと。岩崎城の殿様は、

びつくり仰天してすぐさま家来を集めて、

「お城をなんとしても守らなければならぬ。」

と話したのだと。

しかし、家来たちは、この少人数でどうやって守ったらええが、おもしろい悩んでたのだと。

攻めてきた隣りの国の武士達は、

「山は高いし岩はだが大きくむき出っていて、今にも大きな岩が落ちてきそうだし、山の東側には大川、川幅が広く深く、あおあおとして流れていて、なかなか攻め落とすには困難だ。」